

(1) 號四第 澤 菊 行發日七月七年二十和昭

◎村會議員當選者(村)

昭和十二年五月十五日執行本村々會議員選舉當選者左ノ如シ

千富玉	楊千玉	見野子	武子	武子	見野子	全野	住野
渡岡田	窪渡	田野	子	子	子	子	子
宇相大	若福	田江	宇須	加藤	大塚	廣田	渡邊
賀羽沼	井井	長岩	井倉	彌三	鶴一	儀四	儀三
神一雄	太平	吉	吉	郎	郎	郎	勝
三五	五二	四七	五七	四四	五二	六七	五八
三	七	五	七	四	二	七	八

◎小學兒童苗代害虫 驅除成績 (農會)

千渡	田島	恒吉	三八
武子	篠原	宇一郎	五一
玉田	鈴木	太造	三五

菊 澤

號四第

編輯兼 發行所 菊澤村經濟更生委員會
 編輯兼 發行所 菊澤村經濟更生委員會
 印刷人 井上平作
 電話 三五三三番

一畝の力を信ぜよ

◎昭和十二年宇都宮聯隊 區陸軍簡閱點呼日割

執行官(宇聯)陸軍歩兵中佐 廣川泰助
 執行日割 昭和十二年八月二十二日
 (到着集合時刻午前七時卅分)
 點呼場 菊澤尋常高等小學西校

◎自治功勞者表彰

本村自治功勞者表彰式は四月二十九日天長の佳節をトシ役場樓上に於て舉行左の九氏が表彰された。

書記勳績十五年以上
 三品晉蔵氏、田島貞吉氏
 公職(村會議員及區長)勳績三期以上
 藤田重明氏、宇賀神幸吉氏、菊地清次氏、大出源次郎氏、西川保吉氏、大橋茂氏、佐藤源四郎氏

◎無火災部表彰

消防組に於ては兼て五ヶ年間無火災部の表彰方を村に内申中であつたが、六月一日夏季点檢終了后關谷鹿沼沼警察署長臨席の上之が表彰式を舉行、左の九部が表彰された。

第一部、第三部、第五部、第六部
 第七部、第八部、第十部

邑 說

★ 農村と料理

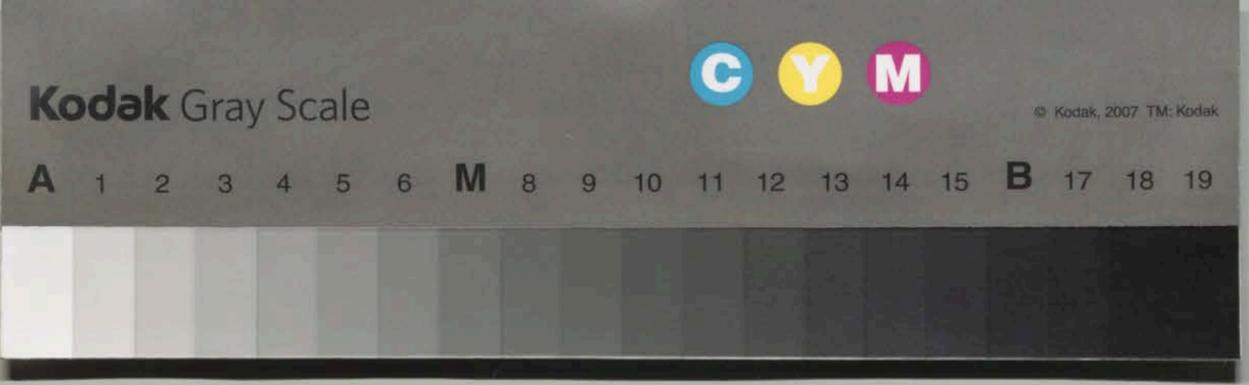
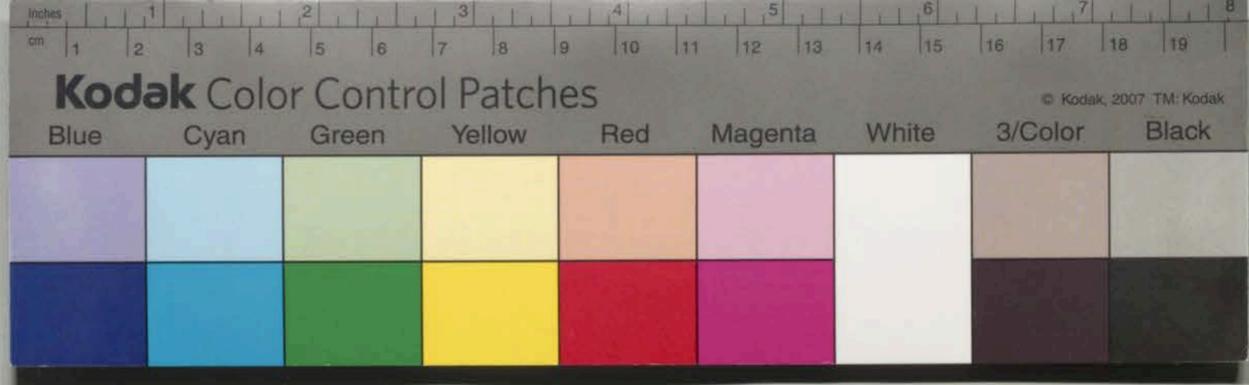
デンマークの首都では、お味い料理は地方農家へ行かなければ食べられないと言はれてゐる。デンマーク普通農家の食事を試みに擧げて見ると

朝食は、牛乳を搾出使つたオートミル(燕麥のお粥)又はブレイン(大麥のお粥)に、バター、パン、チーズ、バター、挽きたての香り高いコーヒー、半熟の玉子、ベーコン等。晝食及夕食は、肉と野菜の料理、パン、チーズ、バター、コーヒー、其の他ビール(ピルセニア)は食事毎に飲むといふ。

これは決して何處かの農村のやうに、旦那様ばかりが食ふのではない。女中でも男でも牧夫でも主家の家族と同様に食ふのである。有馬相ではないが、一日の食費僅か十四錢、刑務所の囚人と一錢しか違はぬ我が國農家の食事と、正に雲泥の差である。

★ 美味い料理必ずしも營養があるとは言へず、高い料理決して美味いとは言ひ難い。けれども、農村には今少し美味い營養の豊かな食物が必要なのではないか。農村の實情を見て眞に此の感を深くする。近頃喧しい農村保健問題も、農村人種劣化問題も、こんな處から解決されるのではあるまいか。

デンマーク農村が優れた食物を持つ原因は一にして止まらぬ。國民高等學校の發達によつて、農村の子女が先づ徹底的に料理の技能を体得することがその一である。



菊澤村會

菊澤村會初會議

有権者一千有餘ノ心臓ヲ一度ニ「ドット」高鳴ラセタ五月十五日、本村々會議員ノ總選舉、當局ノ徹底セル肅正運動ト多數有権者各位ノ自覺トニヨリ幸ニ何等ノ事故ナク眞ノ理想ヲ以テ其ノ大團圓ヲ告ゲタ事ニ對シテハ滿腔ノ敬意ト全幅ノ祝意ヲ表ス。

- 一、 菊澤村會々議録
二、 菊澤村會々議録
三、 菊澤村會々議録
四、 菊澤村會々議録
五、 菊澤村會々議録
六、 菊澤村會々議録
七、 菊澤村會々議録
八、 菊澤村會々議録
九、 菊澤村會々議録
十、 菊澤村會々議録

助役 渡邊 勝

- 十二番 渡邊儀一郎
十三番 田島恒吉
十四番 廣田喜三郎
十五番 加藤彌一郎
十六番 大塚鶴一郎
十七番 宇賀神一雄
十八番 鈴木太造

具體疾者ニ對シ所得額金千圓以下ノモノハ一人ニ付金二十圓、全上金二千圓以下ノモノハ一人ニ付金十圓ヲ所得額ヨリ控除ス
一、 現役軍人、長期入營者一人ニ付金二十圓ヲ控除ノコト
二、 特務兵教育召集者一人ニ付金十圓ヲ控除ノコト

基本財産委員等ハ何レモ定數ハ四名トシ議員中ヨリ之レヲ選舉スル事ニナツテ居リマス其ノ任期ハ何レモ一年デアリマスガ本年ハ御承知ノ通り議員ノ總改選ガ行ハレマシタ結果議員ノ任期満了ト共ニ委員ノ任期モ満了ト相成マシタ故其ノ選舉ヲ御願致ス次第デアリマス

但シ閉鎖租年中ハ左ノ割合トス一、開墾五ヶ年後十ヶ年迄ハ其ノ小宇ノ最低賃賃格ニ依リ賦課ス
一、山林原野ハ一反歩ニ付二十錢但シ伐採所得ハ賦課セズ
勞働賃金其ノ他ノ所得率標準額但シ勞働日數ニ乘シ四拾五人、圓位ニ止ムルコト

農業經營に當るべき多くの家畜をとり入れ營養物の自給化を計つてゐることがその二である。農家組合の協同處理によつて、極めて簡単に食品を出し得ることがその三である。お美味い料理は農村へ行かなければ食べられない。日本の農村がさう言はれる日は何時であらうか。

自然と農業
軒を訪れる小鳥の聲に目を覺すことは、たしかに農村生活の樂園である。たそがれ時田の水巡りに聞く蛙の聲もいものである。

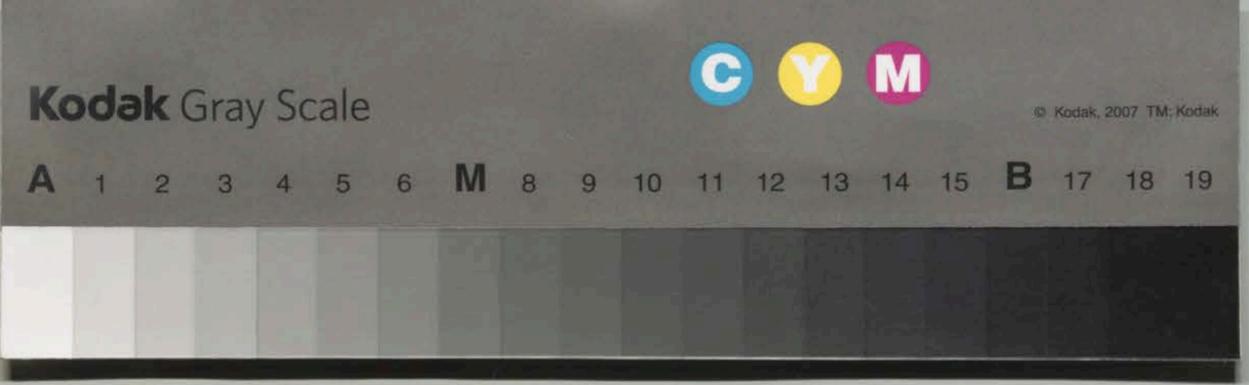
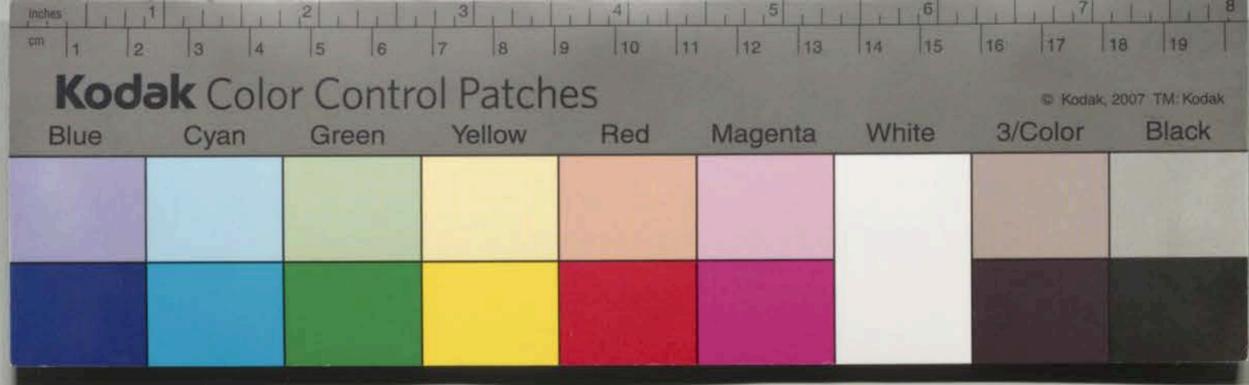
自己を認識せよ
國家強權の庇護と、産業組合その他農民の自主的團體の自覺活動によつて、我が國農村は歩一步の經濟力を充實させて來てゐる。殊に最近のインフレーション氣構は更にこれに拍車をかけた。

Table with columns for '種別' (Category), '所得金' (Income), and '種別' (Category). Rows include '種別', '種別', '種別', '種別', '種別', '種別', '種別', '種別', '種別', '種別'.

小鳥の乱獲は昆虫の横行をゆるし、化成肥料の増施による蛙の絶滅は稲害虫の繁殖を援ける。しかも害虫の繁殖は更に病害の發生と相關する關係を持つことは病理學で證明されてゐる。即ち稻の萎縮病、葉枯病はウツカカ、甘蔗の腐敗病はキヌオシメ、瓜類のハダ病はウツカカ、馬鈴薯の萎縮病はハダ病の媒介によつて傳播されるなど、枚舉に暇がない。

隨つて鳥獸の減少は農作物害虫の猖獗を意味する。百性から蛇蝎の如く嫌はれてゐる雀でさえ一羽の胃の腑に六百近い害虫を持つてゐるさういふ。多くの鳥獸が害虫驅除に努むる姿は吾々の日常見聞するところである。勿論鳥獸が直接農作物に及ぼす害は、極力防がねばならぬが、これ等間接的利益の莫大なことを考へて、もう少しこれを保護し撫愛する必要があるのではないか。





(5)

納税雑記

加藤 邦夫

○昭和十一年度國税調定額八、三六一圓
内納付額八、三六一圓 此成績一〇〇％
○昭和十一年度縣稅調定額一八、九六〇圓
内納付額一八、八八九圓 此成績九九・六％
○昭和十一年度村稅調定額二〇、四九五圓
内納付額二〇、二八九圓 此成績九九・九％
○國稅は久しぶりの完納である
○縣稅成績は恐らく上郡賀郡下の首位であらう勿論近來の最優秀記録
○村稅納額は二〇六圓一〇錢で延人員一四八人 例年の一割弱
○滯納の最も多かつたのは戸數制で五八八 八六圓五九錢
○次が雑種稅の四一人六〇圓四一錢
○大字別に見ると楊窪と見野が納稅模範字の双璧といふところ
○楊窪の滯納者は二人五〇錢で共に納稅組合に入つてゐない
○見野の滯納者は一人五圓一錢で税目は隨時の不動産取得稅である
○滯納者を金額の大きい順に並べてみる

○滯納金額の小さいところを並べてみる

○圓〇六	家屋稅	富岡の人
○〇七	家屋稅	千渡の人
○〇七	地租附加稅	富岡の人
○〇九	地租附加稅	富岡の人
○一〇	雜種稅	玉田の人
○一一	雜種稅	玉田の人

○村條例によれば督促状が出る金額の大小に拘らず一通十錢の手數料を納めなければならぬ
○前記一五圓(戸數制前期富岡)の滯納は現在 七月一日 既に二圓餘の延滞金がついてゐる
○村條例によれば督促状が出る金額の大小に拘らず一通十錢の手數料を納めなければならぬ
○前記六錢(家屋稅富岡)の滯納にも拾錢の手數料がついてゐる
○滯納者の九割は納稅組合未加入者である
○滯納者の氏名を村報上に發表すればといふ聲が大きい
○納稅組合未加入者を早く一掃したい。既設組合への新加入もいふ、新組合の設立もいふ、當局は喜んで御相談にあづかるであらう
○昭和十二年は國稅も縣稅も村稅も完納にしたいものである

雑報欄

●映畫に入る菊澤村

縣では兼てより農林省の依託によつて負債整理組合宣傳映畫撮影を計畫し、その候補地を物色中であつたが、白羽の矢を本村に立て、去る六月四日山本主事自らカメラをとり、下楊窪農事實行組合員總出で、男女青年應援の下に終日撮影に従事した。鶴巣沼にうつる男体女峯の姿や、千渡古賀志の山々を背景にしたこの美しい物語は、三、四巻のフィルムに収められ、完成の上は複製して全國へ配付される豫定であるとのこと。

●入退營兵の歡送迎

武子の三品歌吉氏三男三女は、去る五月三十日横濱賀海兵團へ入團された。越えて六月一日には富岡中尾徳義氏長男徳三郎、武子島田源七郎氏長男進の兩君(何れも近衛歩兵)が目出度く除隊された。

●國防婦人會結成さる

かねて其筋から設立を奨められてきた國防婦人會が、在郷軍人分會員の努力によつていよいよ結成され、去る六月一日その發會式が役場で舉行された。聯隊區から廣川中佐が臨席され、一場の講演の後、規約の制定役員の選任に入つたが、エブロン白樺のお婆さん達の氣焔に、役場の二階は時ならぬ異風景を呈した。因に會員數は一八五名で會長に古澤ア

●託兒所視察三夫人來る

青年團見野支部では、區内から出兵中の岩本タケ伊藤伊三郎兩氏の家庭に對し前後數回に渡つて農事の手傳ひを行つて來たが、去る六月十六日には渡邊支部長指揮の下に男女青年團約三十名が鉢巻の意氣姿で、田植も勇ましく終日挿秧に奉仕した。

●共同作業場近く開所

經濟更生特別助成金の活用により、東西二ヶ所に共同作業場を設備中であることは既報の通りであるが、いよいよ七月一日から開所される豫定となつた。

●村有林植林奉仕

村では村有林七町歩の中、約一町歩に對し杉植苗の植付を計畫中の處、去る五月八日青年團の勞力奉仕によつて實現された。當日は早朝百五十名の團員が手に鋤鎌を持つて勢揃へ、團長や村長の指揮で刈拂ひを強行、約二千本の植付を行ひ意氣大いになつた。

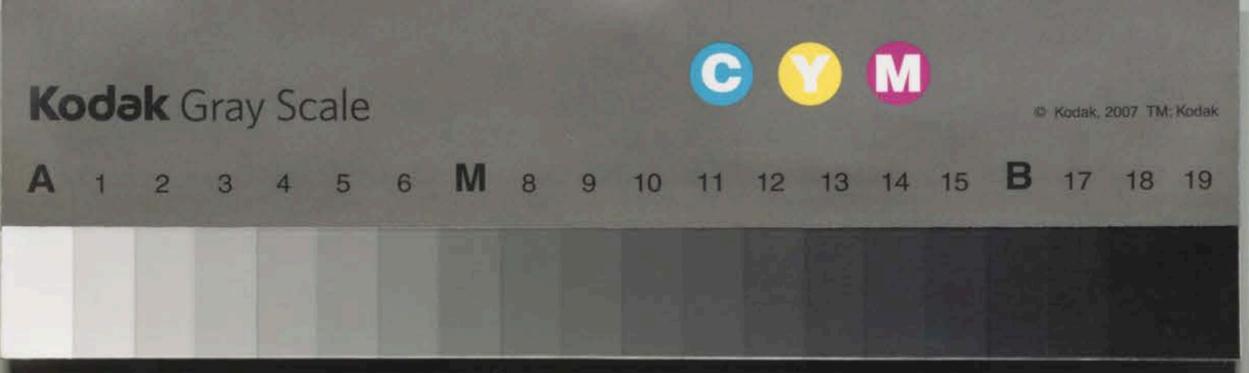
(4)

シツ、アル所デ有リマス
殊ニ這般ノ村會議員總選舉ニ於テハ御互ニ此ノ躍進菊澤村ヲシテ愈々益々躍進ノ實ヲ收メシメ強ク正シク眞ニ明朗ナル自治体ヲラシム可キ事ヲ理想トシテ選舉場裡ニ臨ミ多數村民ノ輿望ヲ負ツテ當選ノ榮冠ヲ贏チ得タル十八議員デ有リマス、今後ハ宜シク十八名打ツテ一丸トナリ和衷共同シテ村民多數ノ期待ニ副フベク誠心誠意村政發展ノ爲メ献身努力セネバナラス事ヲ痛感致ス者デ有リマス而シテ此ノ本日ノ初會議ニ於ケル勞頭第一議案タル各種委員ノ選舉コソ之レガ十八議員ガ眞ニ和衷共同シテ一致ノ實ヲ收メ得ルカ否カノ重大ナル岐路ニ立ツテ居ルカノ様ナ感方致シマス
此ノ委員選舉ガ圓滿ニ行ハル、事ニヨツテ所謂十八議員ノ和衷共同ノ精神ヲ實體的ニ表現致シ得ル絶好ノ機會ナリト固ク信ジテ疑ヒマセン
故ニ本員ハ本案ノ十五名ノ委員選舉ニ當ツテハ適材ヲ適所ニ配スル一人一役主義ニシテハ如何ト存ジマス而シテ其ノ方法ハ從來ノ選舉ノ法ニヨルコトナク議長指名ニヨル各字ヨリノ設備委員ヲ學ゲ特ト設備ノ上之レヲ議長指名ノ形式ヲ以テ圓滿裡ニ各種ノ委員組織ガ出來ル様ニ致シタク勸議ヲ提出致シマス、大方各員ノ御賛成ヲ願マス
(一番二番十八番賛成ト呼ブ)
十二番 只今十一番議員ノ勸議タル一人一役主義ト申ス事ハ誠ニ結構ナ事デ

有リマシテ本員ハ大賛成デ有リマス同時ニ之レニ關シテ希望ガ有リマス、ソレハ本員ハ現在菊澤西校ノ學務委員ヲシテ居リマスカラ今回ノ委員組織ニハ是非遠慮シタイト存ジマス
向本員ト同様十四番議員モ現在菊澤東校ノ學務委員ヲ致シテ居ル關係上委員ヲ遠慮致シタイ希望ヲ持ツテ居リマス次第デスカラ御含ミテ願ハシム
十一番 只今本員ノ勸議ガ幸ニ成立シマシテ一人一役主義ガ實現出來マス事ナレバ本員モ現ニ他ニ職務ヲ持ツテ居リマス關係上十二番同様委員ヲ遠慮致シマス
長 只今十一番議員ノ勸議ニハ數名ノ賛成者ガ有リマシタカラ完全ニ勸議ハ成立致シマシタガ他ノ各員ハ如何デスカ
(各員賛成)
長 各員御異議ガ御座イマセンカラ委員組織ハ適材ヲ適所ニ配スル一人一役主義ニ致ス事ニ決シマス
(各員異議ナシ)
十三番 只今十一番十二番十四番議員ヨリ何レモ現在他ニ重要ノ職務ヲ持ツテ居ル關係上今回ノ委員選舉ニハ委員タル事ヲ遠慮サル、ト云フ誠ニ美イ心情ニハ敬服致シマス就テハ議長指名ヲ以テ各字一人宛ノ設備委員ヲ舉ケ圓滿ニ設備會ヲ開イテ設備サレシム事ヲ望ミマス
(各員賛成)
長 各字一名宛ノ設備委員ハ議長指名ニ各員御異議ガ御座イマセンカラ指名致シマス
玉田 海江 岩吉君
見野 渡邊儀一郎君
富岡 相羽 梅次君
武子 廣田喜三郎君
柳澤 若井 太平君
千渡 田島 恒吉君

以上六名ノ御方ヲ設備委員トシテ指名致シマス宜シク別室ニ於テ御設備ヲ願マス
設備會中ハ本會議ハ休憩致シタイト思イマス如何デセウ
長 休憩前ニ引續キ(午前十一時)本會議ヲ開キマス
設備委員ノ結果ヲ報告致シマス
十三番 設備委員會ノ結果ヲ報告致シマス
土木委員 鈴木大造君、佐藤要太君、大塚鶴一郎君、宇賀神一雄君
出納検査立會委員 大沼富作君、廣田四郎君、若井太平君、田島恒吉君
基本財産管理委員 宇須井倉吉君、加藤彌一郎君、福田長重君、熊倉眞三郎君、篠原宇一郎君、海江岩吉君
以上ノ通りデ有リマス
長 只今報告ガ有リマシタ通りデ收メテ議長ガ指名致シタ形式ニ依リ御就任ヲ願ヒタイト存ジマス
(各員異議ナシ)
長 各員御賛成デ有リマスカラ以上ノ通り決シマシテ第三議會ヲ省略シテ確定議ト致シタイト存ジマスカ如何デセウ
(各員異議ナシ)
長 各員御異議ガ御座イマセンカラ之レニテ第一號案ハ確定致シマシタ續イテ第二號案ノ第二議會ヲ開キマス
第二號案ハ昭和十一年度ノ所得ヲ根據トシテ申告書ヲ提出ス可ク提案セラレタルモノナルヤ
長 左様デ有リマス

十番 第二號案ノ第二議會ハ原案ノ通り異議アリマセン、第三議會ヲ省略シテ可決確定議ト致サレン事ヲ望ミマス
(各員異議ナシ)
長 第二號案ハ十番議員ニ各員御賛成デ有リマスカラ議會ヲ省略シテ確定議ト致シマス次ハ第三號案ノ第二議會ヲ開キマス宜シク御審議ヲ願ハシム
十三番 第三號案ハ何レモ前例ガ有ツテ提案セラレタ様ニ承知シテ居リマス故ニ原案ノ通り異議有リマセン第三議會ヲ省略シテ可決確定議ト致サレン事ヲ望ミマス
(各員賛成)
長 只今十三番議員ニ各員御賛成デ有リマスカラ第三號案ハ第三議會ヲ省略シテ可決確定議ト致シマス
(各員賛成)
長 之レニテ本日提案致シマシタ議案ハ全部議決致シマシタ就テハ町村制第五十八條ノ規程ニヨリマシテ議員中ヨリ會議録署名員二名ノ選舉ヲ要ス事ニツツテ居リマスガ如何ニ致シマセウカ
十一番 前例等モ有リマスカラ署名員ハ選舉ヲ行フ事ナクシテ議長指名ニテ議長職ニ順應リト云フ様ニシテ頂キタイト思イマス
(各員賛成)
長 十一番議員ニ各員御賛成デ有リマスカラ署名員二名ハ議長ガ指名致シマス、一番二番ニ決シ署名ヲ御願致シマス
(各員異議ナシ)
村 閉會ヲ宣ス時ニ午前十一時卅分右會議録ヲ朗讀シ左ニ署名ス
昭和十二年五月三十一日
菊澤村會議長 大出 新作
村 會議員 福田 長重
村 會議員 大沼 富作



(7)

小麥の販賣統制

流通性經濟に於ては、物の価格は時間的に地理的に變動が大きくなり、常に波の如く高低があり極りがない。需要を超越して、物が大量なれば價格も安く、物が少量なれば價格が高くなる。言ふまでもなく、明らかなる處である。此れを地理的に或る數量の物を集荷し、市場への出廻を調整して、市場の騰落に應じて時間的に供給する。即ち需要供給の調節を計りて、品物の一時にどつと市場に出廻るを防止し、需要に應じて出荷すれば、品物の値段を常に一定に保つことが出来る。

此の需要供給を調節するに依りて、農家の収入を増進するには、どうして農家収入の源泉たる農産物の販賣統制に依らねばならぬ。

販賣統制とは此の如く、消費大衆の需要に應じて、市場へ農産物を出荷して、常に一定價格維持を計るのである。即ち農家自体の生産した品物は、農家自体によりて決定した値段で賣却する、價格の決定権を掌握することにあるのである。

今迄の販賣方法は、農産物を商人に賣却するに賣りたゞかれて、其の上賣却代金の決済は、内入金で金額の回収は出来ず、賣りたゞかれた上未回収に終る。これでは農家収入の増進を計ることは出来ぬ。こんな例は屢々あつた。

其の上農家は、金錢の収入時が極限して居り、何時も苦しい立場に置かれて居る關係上中小農家は米麥の出來秋には、すぐに農産物の資金化を急ぐ、夫れ故相場は急轉直下下落の一途を辿る。下落すれば下落する程、賣り急ぎ賣り急げば尙更下落するで、停止する處を知らない。

此の資金化を急ぐ者には、金融の道を付けたる安全に容易に保管貯蔵して、農産物の出來秋の供給過剰を調整し、以て價格を維持する農産物といふ機關があり、これに集荷し貯蔵して時間的に調節し、販賣統制を計つて居る。而して有利なる立場に於て、農産物の販賣を行ひ、價格の自主的決定の掌握にはどうして農産物を大量に集荷して、販賣の統制を確實に行はねばならぬ。

今小麥に於ては是を見るに、小麥の生産者は大部分が、中小農家でこの中小生産者は、出來秋にはすぐにこれを出荷し賣却して、お盆を控へて肥料代農具代等、或は日常經濟用品代となり、或は公租公課の納入として、決済をつけられる。即ち何等の統制もなく、前述の如く被賣亂賣急ぎが行はれて、有利な販賣などは夢にもない始末である。

一方、小麥を商品化する製粉會社、醬油製造會社は、巨大なる資本を以て強固なる統制の下に於て、原料たる小麥を、安値買入のためには何等の弱材料なきにかゝらず、殊

り、共同販賣したるものを算出した平均價格を以て、各人別に等級數量に應じて、即ち三等の標準格より格上格下格により計算するのである。勿論前渡金、内渡金、全上金、保管料、販賣取扱料を控除して算出する。

三、手数料
依託販賣の手數料は一俵四錢とす。但一錢は全販聯、一錢は縣販聯、二錢は組合の收入とす。

四、資金融通
貯蔵並販賣資金
時價の八掛まで融通する。日歩は一錢五厘。現行組合貸付利率(日歩二錢)に比し非常な優遇である。

更小麥の建値を引下げてまで、小麥の安値買入の手段となし、或は一時市場を閉鎖して迄、製粉會社小麥粉の高價買入を考へて居る。小麥の出來秋の一時の出廻り、短期間に取引され、常に經濟的不況の農民は安い小麥を賣り、高い米を買ひ、安い米を賣つて高い小麥粉を買ひ、これでは容易に農家の芽は出ない、燒石に水はあたりまへである。

農家の汗と血の結晶たる小麥が安値にて取引されて、何等の容喙もなく、又まつたくこれに對抗すること出来ぬものも、農民共通性の運命主義に「しかたがないさ」主義にあきらめて居り、この不利なる條件に對して、唯販賣すれば務は了つたで居る農民こそ、全くの御人善である。

此處に我等生産者たる、農家自体が熟考すべき何物か無いでせうか、いや確にあるはずである。

此に於て販賣の統制といふことが、高稱せられる所以である。六、七、八、九月の短期間に、一度にどつと市場に出廻ることを防止し、經濟上豊ならざる農家を救へ、收入の増進を計り、これにより經濟の更生を計るは實にこの販賣の統制ではあるまいか。

然らば小麥の價格は一体何處迄が適當かと言へば、米價の約六割以上が、小麥の價格で正當なる價格である、識者が呼びかけて居る。果して小麥は正當な價格で取引せられかけて居らざらうか。

産業組合人の一糸乱れざる統制が進められこれにすべての農村人が歩調を合せて、進むことによりて、販賣統制の眞の効果が顯れて来ること當然である。

一、一時の利益のために被賣投資急ぎ等、無統制な活動により、全産業組合系統の販賣統制運動を傷める様なことがあれば、その人は全三千万農民を賣る處の人であつて、吾々農民の敵であると言ふべきである。

此の点産業組合人として、最も考慮すべきことで、産業組合人は全責任を以て、全三千万農民のために統制を確保すべきである。然かもこの販賣統制運動に對する訓練は何と云つても農産倉庫の利用によること、最も重要である。即ち農村人が農産倉庫の存在の理由、其の全機能をよく認識して、これを利用すべきで、其の利用程度の如何によりてその効果が直接間接に、農産生産品の價格の上にならざる影響が来るのである。現在産業組合人の多くが、これを利用して、現在産業組合を認識して、實行に移りつゝあることは吾人の意を強ふする處である。

今後農産倉庫が全生産者のためにも、利用し得る様に發達して、中小生産者が自由に自己の生産する處の小麥を、貯蔵して金融をつけ、更にこれを共同計算して平均賣をなす様になつたならば、生産者の受ける利益は蓋し甚大であると言ふべきである。

「荷は價を呼ぶ」とは、全販聯の小麥販賣統制の標語であるが、實に當を得た言葉ではあるまいか!!

彼の大資本家の製造業者が、自己の計算に於て販賣價格を決定して販賣する如く、我等も自己の計算に於て生産物の價格を決定し販賣し得るの日を一日も早からしむべく、販賣の統制を絶対支持せられん事を、望むで止まないものである。

(宇賀神美喜雄)

こぞつて出荷
そろつて販賣

(6)

昭和十二年度小麥販賣改善方針

菊澤村信購買利組合

一、集荷獎勵
(イ) 集荷獎勵
農會、産業組合、産業組合青年聯盟
集荷場所
東部農業倉庫(七月開業の豫定)
西部農業倉庫
集荷と検査
集荷を計る爲め、集合検査を實施、此の集合検査に参加し販賣を組合に委託した者に限り、検査料を補助する。
集合検査の場所は、東西農業倉庫、日割は菊澤村駐在の検査員と協議の上、決定し發表されるはつ。

(ニ) 保管料
實行組合主体により出荷したる者は十五日以内は免除す。
個人出荷したるものは、七日以内は免除す。

(イ) 販賣方法
全販聯を通じ依託販賣の方法に依る。
但取引單位に達せざる場合は縣販聯に於て買取を行ふことがあ

(ロ) 平均賣、共同計算に依る販賣を

獎勵する。

1、平均賣
販賣方法は組合に於ては、縣販聯に一定數量を、平均賣の申込みなし、縣販聯に一切の販賣關係は全部委託し組合は、一つも立ち入らず、縣販聯は全販聯に全部を委託するのである。
全販聯では隨意販賣の方法によりて、平均賣を實施するのである。

而して此の平均賣の期間は、七月より十一月に到る五ヶ月間である。即ちこの期間内に於て販賣した價格は平均して、平均値段を出して算出するのである。
又此の期間中、七月中に申込みたる者は、七月より十一月迄の平均をとり算定し、八月中に申込みたる者は八月より十一月迄の平均をとり算定して、決して溯ることはない。而して十一月中の申込みは一月月の平均となすべくして、十一月に入つた者は即日販賣となるのである。

2、共同計算
共同計算とは平均賣の實施によ

「新米に就て」

本縣農事試験場、無芒愛國を母とし、撰二二號を父として、人工交配で作出した品種である。

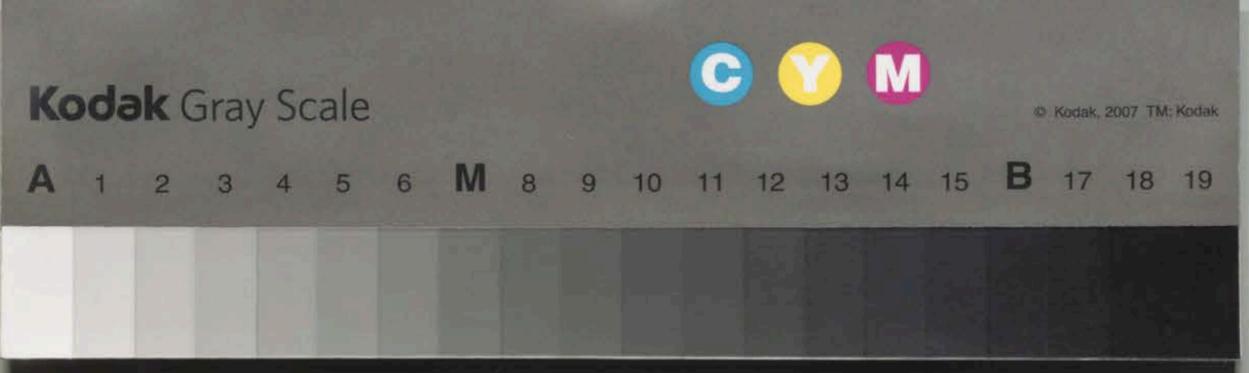
昭和十二年二月、水稻「新米」と命名し獎勵品種とした。

一、特 性
イ、栽培適地 縣内平坦部の乾濕田何れにも適す。
ロ、熟 期 中生愛國より約五日早い。
ハ、外 形 稈の長き中位、愛國種に比べて形短く倒伏が少い、無芒で稈の光が紅色をしてゐる。
ニ、支米形状 中形小粒で、腹白や心白なく品質がよい。
ホ、成熟期 普通栽培で愛國より五日早い(九月二十三日頃熟期)。
ヘ、収量愛國収量一〇〇%に對して撰一、一〇〇%、新米六%である。

村税滞納一覽

(算用數字ハ金高 漢數字ハ人員)

別字	玉	田	見	野	下遠部	富	岡	武	子	檜	千	波	他町村	計
地租附加税	1,00					11,73							2,80	15,53
特別附加税						0,71							0,59	1,30
營業附加税	14,52													14,52
家營雜戸歳	7,42				1,76	2,17		0,57				1,19	0,58	13,69
種數業	19,70		5,51			6,21		4,23				7,77	8,36	60,41
計	32,81				7,90	27,50		7,53			5,0	7,07	3,28	86,59
	75,45		5,51		9,66	56,66		23,06		5,0	16,03		19,23	206,10



農繁期 托兒所巡り

(渡邊生)

一、千渡托兒所

陰鬱な入梅の空から思はせぶりな太陽が覗いたある一日、農繁期托兒所の状況を見て戴かうと、宇都宮街道の凸凹道を自轉車を驅つて目指す龍崎寺へ。

朝露がしつとりと雨の草の葉末に宿つてベタル踏む足を濡らす。まだ八時を少し過ぎただけなのに、もう境内を覆つてある櫻の木の下に、四十名近い子供の群が、プランコや砂いぢりに余念がない。筒袖の白衣を着た若い岩田さんが、子供の群れに混つてなにくれと面倒見てゐられる。

色々御苦勞様になります。さ御禮を述べながら、どうです成績はさ何つて見る。

「こは試験的に他より三日早く初めました出席がどうかと心配しましたが、この分ですと御座で満足通りゆきさうです。岩田さんは目を細めて、それでも遠慮勝ちに語られる。

出席申込が五十名で第二日には四十七名出席したといふ。龍崎の内に聞くと、岩田さんは一軒一軒勧誘して歩かれたさうだ。もつとも昨年既に托兒所の計畫を立てられたのだ。種々の都合で遂に實行出来なかつた。岩田さんにしてみれば本懐であらうが、部落の人々は全く有難いわけだ。

職をしてゐる内は気がつかなくつたが、東校の林先生も、もうとつて来て居られたのだ。「大變でせう」と言葉を掛けるとニッコ

り笑はれた。

急にすべり差の方で子供が泣き出した。岩田さんと林先生が驚きつける。家が熱くなくつたらしい、しきりに老婆を呼んで泣く、ヨシヨシと岩田さんが抱き上げた。庭の片隅に近所のお婆さんらしいのが二、三人。

「婆あ育ちば三百あつてなあ」と云つてドツト突つた。向ふの方でも先生に抱き上げられてゐる。これも落伍者らしい。岩田さんのお母さんの指揮で毎日三人づつ、交替で奉仕して下さる。名札付けや、給本の説明やらもう一生懸命である。全く涙ぐましい努力だ。人と設備と至れり盡せりである。あまり長居をして邪魔になつてはと辞して歸らうとするお母さんがまあお茶をと言はれる。高い境内から見下す、まだ庭の間に三々五々小さい帽子が歩いてゐる。

時間の都合もあるので無理に挨拶切つて歸る山門のところで、もう一度振り返つて見ると岩田さんが抱いてこちらを見てゐられる。ふつとその時僕は遠後の長上上人を思ひ出した。そしてなぜともなく眼がしがら熱くなつて来た。

二、柳窪托兒所

「大分集まりましたなあ」

等持院の大きな百日紅の赤い若芽の下が砂場である。そこで着流しの石川さん御夫婦に

言葉がかけられる。

「部落の人は良く理解して呉れましたよ。初日に三十二人集りました、申込みは三十七人です。翌日あたりは全部揃ふでせう」石川さんが云はれる。自分の家へ歸つたやうな気安さで車裡に上り込んでお茶を飲む、菊地前村長さんも病後を押して来てゐられる。

「藤井の實行組合でやつてゐるのを見て来ましたが」と設備の苦心談を話される。成るべく金をかけず、手間もあまり他人を煩はさず永續性を考へてゐられる石川さん。さう云へばこの人は部落の少年團を指導してゐられ、休み日には境内に集めて訓練されるさうだ。千渡の岩田さんといひ、この石川さんといひ、宗教家の獨善と高踏さを云々されるとさうかうして部落に乗り出して民衆を指導して下さる。理窟はともあれ、これが本當の宗教なのではあるまいか、深遠な哲理も卓越した教理も、それが大衆の心根に生きて初めて意義があるのではなからうかと思へる。

傍の手にある日記を覗いてみる。お話など五つ六つ書かれてあり、保育状況のところには、今日は午睡をする児が四、五人あつた長い子は二時間眠つた。とか、泣く児が一人あつた比較のおとなしい等詳しく誌されてあつた。

本堂から甲高い聲が聞えるので、覗き込んで見ると、すずりさ小さい藤を行儀よく揃へて、可愛らしいお河童だの、鶴梨だの並んでゐる。今も藤原先生が黒板へ色とりどりの美しい花を書いてゐる處である。

子供の樂園を後するを慮れて、裏の方からこつそり内先生に御禮を述べて辞去した。大谷街道に沿つたあちこちでは、今田植の真盛りである。

三、武子托兒所

前身を物語る文化住宅の座敷から「どうぞ」と愛嬌よく青木さん御夫婦に迎はれる。

「今日は托兒所を拜見に参りました」といふさ「いやどうも行き届きませんでした」と恐縮される。青木さんの庭園は廣い、生垣に囲まれて約四百坪位、その半分が花壇である。スエートレーヤ、ルビナス、矢車草、撫子等が今を盛りと咲き乱れて目が覚めるやうだ。

「僕はね、初めに考へたのですよ」と青木さんは葉鶏頭を間引きながら語られる。

青木さんは、托兒所に自宅を開放されるさうだ。この花壇に欄を築ぼうと考へられたのだ。では、無心な自分の手に、泥棒の汚名を着せてしまふことをやうな気がして、何とも航が打てなかつたさうだ。よし折られてもむしりて提供しようと思へて、とうとう欄を築けなかつた。ところが昨日も今日も一人として花壇を侵すものが無かつたさうだ。

青木さんは、何と云つていゝかわからぬこの感激をしんかり話された。

「あの栗の木の下が遊場です」と指さす方を見ると、咲き乱れたスエートレーヤの花の中から、柴田先生がこちらを見て笑つてゐられる。遊び場へ来て見ると皆元気がいい。一生懸命飛ぶつてゐる。すべり臺を一人で占領して誰も寄せつけず頑張つてゐる子も、東校長先生の奥さんがしきりになだめてゐられる。

どうも日支交渉以上の骨折らしい。開けば二十七名出てゐるさうだ。一週りして裏へ行くと、納屋をすつかり片付けて、休み場が設けられてゐる。最も座敷も開放してゐるのだが、場所がいゝのかの方が繁昌して大分午睡に耽つてゐる。こゝで遊ぶの夢は定めて美しであらうと思はしながら、厚く謝して再び自轉車に乗つた。

「お骨が折れますよ」といふと

「いえ田植より疲れますよ」と笑はれる。

西校の山本先生が裏の方から眠つた児を抱いて来て本堂へ寝かされた。佐藤さんが野真仕度で出てこられた。隈川さん御夫婦が、毎朝掃除がめられるさういふ庭の木立の下で、佐藤さんのお話を伺ふ。

佐藤さんも昨年からこの托兒所の設置を主張されてゐた一人である。それだけに、村内の五ヶ所の托兒所経営について細い点まで心配してゐられる。經費のこと、設備のこと、人の問題等細々と話されるのを聞くと、托兒所経営も一通りのわざでないかと、しみじみ感ずる。語られる佐藤さんは、軍友會の副會長である。こゝもこの托兒所は軍部オンパレードだ。然し子供達は今しも廣い境内で、ヒーゴツゴツと山本先生の汽笛一聲鐵道省宣傳の真最中である。

城寶寺の本堂は深山に立木に囲まれて、勿体ないほど涼しい。そこで色々吉澤さんの御感想を伺ひながら、こんな處でビールでも傾けたら、さぞかしお美味しからうと不届なことを考へる。

今日は四人増えて三十名ばかり出てゐる。家から誰か附いてくるさう甘くないいなといふこと、骨が折れるが欲づくの仕事でない、錢の問題でないだけに非常に氣持がよいといふことなど話される。勿も社會的意義を考へてやつて下さればこそさうしたこと出来るのだ。

大分話に實が入つて時間を費したので、挨拶して本堂を出た。歸りがけを覗くと、隈川さんの奥さんがお八つさつま手なさんとと切つて居られた。

内閣が變つて有馬さんが農相になつた。

新聞紙などによる農業政策も相當期待されてゐるらしい。

時代の浪に乗ることも大切だが、お互生活意識を更新させて行くことが先決だ。

本報には特に初村會の議事録を掲載した。向後四ヶ年間、十八名村議各位の村政に對して切に眞摯な御健闘を祈る。

小麦の販賣統制は必置の文、托兒所巡りは時節柄話題を捕へたに過ぎない。

納税雜記は簡潔の内に感謝と喜びが願望とが盛られてゐる。三讀四讀せられたい紙数の都合で小説は當分休載しなければならぬことを深くお詫言する。

村報が難しいといふ聲を聞く、逐次出来るだけ平易にするつもりである。

連日の空入梅で水不足のため部落では荒代止めた。

氣の毒だが天候だから如何とも仕方がない。

販賣の統制も、生産の指導も、やてんと様子を曲げられては問題にならない。だから生活を感謝することは何時になつても必要である。

(渡邊)

四、玉田托兒所

公務で忙しい黒崎さん、自ら自宅を托兒所に開放され、しかも役場へ出勤前後の少時間を利用して色々の設備に腐心せられることに、熱く敬意を表しながらお宅へ伺つた。

入梅時に珍らしくカン／＼照つた日である。晝食を喰べられる四校の篠崎先生に挨拶して、すぐ遊び場へ来て見る。黄鯉鯉の浮ぶ池を囲んだ廣い庭園は、四方の田から涼しい風が来て氣持ちよく頬を撫でる。主婦會長の黒田さんが、痒い處へ手を届くほど何くれと世話してゐられる。

「今日はしつと草を變へてゐますよ」と云はれる。見れば遊び場一杯に敷かれた草が丁度今深々とした大木の木陰にある。遊びに氣がさらされて午睡するものも一人もないといふ大元氣だ。一人二人と二十四人まで敷へると、五人晝食を喰べに歸つた子があるんですよと言はれる。篠崎先生が樂籠に水を持ってくる。「さあお上げますから御出なさい」と黒田さんが呼ぶと命令一下遊んでゐた兒が膝元へゾク／＼集つてくる。失禮な形容だけれど、靴が育ぐまれる難のやうで可愛らしい。子供達の手洗場につけた金色の鈴が思ひ出したやうにカラ／＼と鳴る。縁側に腰を下して黒崎さんの奥さんが出して呉れる茶を吸る。四方山話をしてゐる内にも田植歌がしきりに聞えて、ふつと眠くなる。辞して歸らうとする、ラジオから舞踏曲チャルダスが追つかけるやうな軽快な音調を響かせて来た。

五、見野托兒所

東校の佐藤校長先生と武子の青木さんが、自らカチ／＼山の紙芝居を制作して、この托兒所で演習され、今しがた御歸りになつたばかりだといふ所へ伺つた。

菊澤村國防婦人會長といふ嚴めしう肩書を持つ吉澤さんが、駄々児をおぶつて寝つかせてゐられる。どう見ても良い叔母さんである。

「お骨が折れますよ」といふと

「いえ田植より疲れますよ」と笑はれる。

西校の山本先生が裏の方から眠つた児を抱いて来て本堂へ寝かされた。佐藤さんが野真仕度で出てこられた。隈川さん御夫婦が、毎朝掃除がめられるさういふ庭の木立の下で、佐藤さんのお話を伺ふ。

佐藤さんも昨年からこの托兒所の設置を主張されてゐた一人である。それだけに、村内の五ヶ所の托兒所経営について細い点まで心配してゐられる。經費のこと、設備のこと、人の問題等細々と話されるのを聞くと、托兒所経営も一通りのわざでないかと、しみじみ感ずる。語られる佐藤さんは、軍友會の副會長である。こゝもこの托兒所は軍部オンパレードだ。然し子供達は今しも廣い境内で、ヒーゴツゴツと山本先生の汽笛一聲鐵道省宣傳の真最中である。

城寶寺の本堂は深山に立木に囲まれて、勿体ないほど涼しい。そこで色々吉澤さんの御感想を伺ひながら、こんな處でビールでも傾けたら、さぞかしお美味しからうと不届なことを考へる。

今日は四人増えて三十名ばかり出てゐる。家から誰か附いてくるさう甘くないいなといふこと、骨が折れるが欲づくの仕事でない、錢の問題でないだけに非常に氣持がよいといふことなど話される。勿も社會的意義を考へてやつて下さればこそさうしたこと出来るのだ。

大分話に實が入つて時間を費したので、挨拶して本堂を出た。歸りがけを覗くと、隈川さんの奥さんがお八つさつま手なさんとと切つて居られた。

托兒所巡りを終つて板橋街道を下る途中、五歳位の子供が林の邊で河水を飲んでゐるのを見た。そして今更乍ら托兒所の有難さを痛感した。

田植や、獲入れで猪の手も借りた農繁期に先づ考へることは、母の手から幼児を離して安全に保護することである。それは唯に幼児を保護するばかりでなく、内外生活に體使される農村母性の保護であり、更にそれは農家の労働能率を増進させ、經濟生活の向上を圖ることである。

こゝま、幼児は家の光である、天使である。神である、幼児を護れ。

この筆を擱くに當つて、托兒所開設以來献身的に奉仕されつゝある方々の御芳名を左に記して謹んで深甚の謝意を表すると共に、筆者の安言をお詫言します。

一、自宅を開放され又自らも保育に盡された方
岩田、石川、隈川の諸師及青木昇、黒崎宗氏並に御家族の方々

二、保護として盡力された方
林、井上、寺内、塚原、柴田、篠崎、岸野、山本、茂田、長島の諸先生。

三、佐藤ヨシ、鈴木シウ、黒田ヨシ、吉澤アサの諸氏及千渡女子青年團員各位

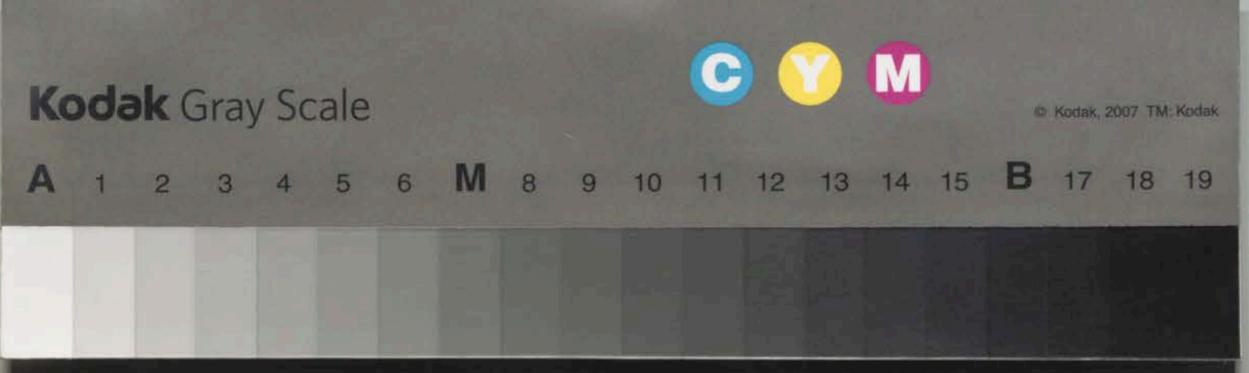
四、方面委員として開設以來始終盡された方
七久保音作、菊地清次、青木昇、大沼富作、佐藤要太の諸氏

五、設備に奉仕された方
青年團、千渡、柳窪、武子、玉田、見野各支部員各位

六、托兒所開所以來外部より援助された方
大出村長、渡邊助役、加藤收入役、佐藤生深、東西兩校長、黒崎主任書記、鈴木水造の諸氏 (六月二十日附)



籠 肩



號四第 澤 菊 行發日七月七年二十和昭 (12)

産業組合欄 雑貨配給値段表	
作業服 特大 一着 三、二〇〇 大 全 三、〇〇〇 中 全 二、八五〇 小 全 二、七〇〇 スレン乗馬ズボン 特大一着 一、三三〇 大 全 一、三〇〇 中 全 一、二五〇 スレン長ズボン 特大 一、四〇〇 大 全 一、三五〇 中 全 一、三〇〇 小 全 一、二五〇 作業シャツ一號 大立エリ 七、七五〇 中 全 七、三〇〇 小 全 七、〇〇〇 二號 大 全 七、一〇〇 中 全 六、九〇〇 小 全 六、七〇〇 三號 大 全 六、〇〇〇 中 全 五、七〇〇 小 全 五、五〇〇 紺木紺 二〇正一 二、四五〇 正一 全 二、〇五〇 四號 全 一、九五〇 五號 全 一、八〇〇 六號 全 一、六五〇 納戸織耳白 智印 全 一、四〇〇 禮印 全 一、三〇〇 地下タビ 全 一、二〇〇 ゴム短靴 中 全 一、八〇〇 大 全 一、七〇〇	運動靴 小 全 五、五〇〇 十文—十一文半大 三、七〇〇 八文—九文七分 六、〇〇〇 六文—七文半 三、四〇〇 雨マント 三號一枚 三、八五〇 二號一枚 三、八五〇 雨外套 農家用全 四、六五〇 全 厚引全 三、七〇〇 唐傘 大人傘一本 三、七〇〇 小供傘全 三、五〇〇 蛇目傘全 四、三〇〇 食塩 一等一呎 一、七〇〇 二等全 一、六五〇 三等全 一、六〇〇 砂糖太白 一貫 一、五〇〇 和目全 一、四〇〇 双目全 一、四〇〇 全上玉全 一、四〇〇 清酒 カネ大正宗ビン付一升 一、二〇〇 天琴全 一、〇五〇 焼酎 寶梅印 カメ付一本 九、五〇〇 全 一、〇五〇 醬油 富士清 一、〇五〇 富士清 一、〇五〇 鷄甲福 一、〇五〇 揚油 カン入(一升弱) 一、〇五〇 八寸(信州モノ) 一、〇五〇 草刈鎌 七寸五分全 一、〇五〇 七寸全 一、〇五〇 洗濯石ケン 一ヶ 〇、六〇〇
化粧石ケン 一ヶ 一、〇〇〇 齒磨粉 一袋 〇、八〇〇 齒ブラシ 一本 〇、二〇〇 徳用大箱マツチ 一ヶ 〇、二〇〇 マツチ 小箱 〇、六〇〇 青年學校服 〇、六〇〇 新規取扱ニ付大キサ品賃注文サレ 度シ 帽子モ取扱ヒマス 一號 特大一枚 三、四〇〇 二號 特大一枚 三、二五〇 大 全 三、一〇〇 中 全 三、〇〇〇 小 全 三、〇〇〇 特大 全 三、一五〇 二號 全 三、〇〇〇 大 全 二、八五〇 中 全 二、八五〇 小 全 二、六〇〇 男夏學生服松印一號 一、二五〇 二號全 一、三三〇 三號全 一、三五〇 四號全 一、五〇〇 五號全 一、六〇〇 六號全 一、七〇〇 七號全 一、七〇〇 八號全 一、八七〇 一號全 一、九七〇 二號全 一、〇〇〇 三號全 一、〇〇〇 四號全 一、一五〇 五號全 一、二二〇 六號全 一、三〇〇 七號全 一、四七〇 八號全 一、五三〇 竹印 一、六二〇	肥料相場 (一一、六、二二現在) 目下肥料相場は、需要期を經過し、落調を辿つて居るとは言へ、四圍の情勢は反撥氣配に轉ずるらしい。目下の處左の如きが成行相場であらう。 大豆正玉粕 一枚 二、六〇〇 豊年 一呎 四、二〇〇 荳油粕 一袋 五、四〇〇 三陸粕 一袋 六、四〇〇 千葉粕 全 六、三〇〇 硫安 一呎 四、〇〇〇 石灰窒素 一袋 一、八五〇 米糠全印吹ぬか一呎 二、五〇〇 農林省品 一俵 一、七五〇 米糠油粕 全 一、九〇〇 (上目十貫俵) 過磷酸石灰 小呎 一、七〇〇 大呎 一、三〇〇 硫酸加里 十貫 六、〇〇〇

